

1962年10月



苦小牧市医師会
苦小牧耳鼻咽喉科クリニック

あき た のぶ と
秋 田 信 人

何となく仕事をして何となく生きていたら、いつの間にか還暦を迎えてしまい、まさかの年男の新春随想の執筆者に選ばれてしまった。何を書こうか悩んだが、結局趣味の話ぐらいしかないので、自分の生まれた年と絡めて書いてみようと思う。

趣味といっても、私はゴルフや麻雀のような皆でわいわいやるものが苦手で、一人で地味に楽しむものばかり続けている。一番古いのが学生時代からのオーディオで、今でもジャズをレコードで聴いている。その他アンティーク時計蒐集、落語（鑑賞と音源蒐集）など、どうみても時代に逆行していると思われる。

また最近ではコロナで毎月の飲み代と時間が浮いたので、もう一つ一人でできることを考え思いついたのが靴磨きだった。これが殊の外面白く、しまいには磨くための靴を買うという本末転倒の結果に。その過程で昔の靴の方が明らかに革質がいいことに気づいた次第。ていうか、その世界では常識らしい。手持ちの靴は売るとか、あげるとかで処分して、アメリカのヴィンテージ靴を集めたのだが、そういう専門店がちゃんとあるマニアの世界は恐ろしい。

ここまで書いてきて自分は古いものを集めるのが好きなのだろうが、新しいものについていけないとも言える。これではいけないと思ったわけではないが、娘たちが子供の頃には全く興味のなかったカメラをその娘の影響で始めてみたところ、今では知り合いの子供の写真を撮って成長を記録するのが使命に感じる今日この頃。自分の娘を残せて話だが、さすがにカメラはフィルムには行かずデジカメで、最初は編集にも苦労したが、最近は何とかLightroomでRAW現像できるぐらいまでにはなった。しかしこれは今回の話の趣旨とは別。

長くなったがここからが本題で、ジャズレコードは1950～60年代、時計は1950～70年代、靴は1960～70年代が中心、落語は古今亭志ん生が脳出血で倒れた1961年を一つの区切りと考えると、私が生まれた1962年とほぼオーバーラップする。という訳で、果たして自分と同じ生年月日のものがあるのかという興味がわいて、その後長年探すことになった。

ジャズレコードは録音年月日が記載されているものが多く、楽勝のように思えるが、これが意外となかなか見つからない。もしかしたらそういうサイトがあるのかもしれないが、それでは面白くないというもある。私は10月8日生まれなのだが、一度10月7日録音のレコードを見つけて、その頃は諦めか

けていた時期でもあり、アメリカの方が陽が昇るのが遅いから、アメリカの7日は日本の8日だと自分を納得させようとしたこともあった。結局その後『Nancy Harrow/You Never Know』という同じ生年月日録音のものを見つけて嬉しかったなあ。知らないレコードだったけど。ちなみに、妻と同じ生年月日のレコードは割と早くに見つけて、喜んで報告したが全く嬉しそうではなかった。

腕時計は製品管理がしっかりしているところと、そうでもないところがあり、しっかりしているメーカーだとかなり年代を追える。特にロレックスなどマニアの多いメーカーだと、何もそこまでというほど、メーカーの意思に関係なく勝手に細かく分類されている。なので、製造年は比較的判明しやすいのだが、意外に製造月までは分からない。他に希望すればアーカイブというその時計のカルテのような証明書を発行してくれるメーカーもあるが、内容を見ると、製造年と販売年月日が記載されている。

私もIWCというメーカーのインジュニアという時計の1962年製を探して一時期所有していたが、他の時計購入の下取りとして手放してしまった。一体何をやっているのだろう。

ヴィンテージ靴もマニアの間で研究が進んでおり、特にアメリカヴィンテージ靴の代名詞といえるフローシャイムというメーカーで顕著だ。靴の内側に記されている印字と、その靴のディテールで製造年月までは概ね分かるようになってきている。年月までだが、マニアは皆自分の生年月製のフローシャイムを探していると思うが、なかなか見つからないらしい。私はといえば、レコードの時と違いすぐに見つけちゃって、購入した東京の専門店のオーナーに驚かれた。長い間商売をして初めてと言われたが、そんなに珍しいのだろうか。

なかにはとんでもないマニアの人がいて、その人のブログを読むと他のメーカーの研究もしており、そのおかげで、フットソープという今はないであろうメーカーの1981年1月6日製とまで分かる靴を購入できた。ただし1960年代製はそこまで細かく分からないらしい。残念。

落語もCDなど商品になっている口演については録音年月日が記載されているものが多いが、今のところ残念ながら自分の誕生日の録音には出合っていない。1962年なら、志ん生が倒れたとはいえ、昭和の名人たちが存命の時代で、本当はリアルタイムで聴きたかった。それが叶わないために、結局生年月日云々と理屈をつけているのだろう。

もしもタイムマシンがあれば、自分が生まれた日に戻って、ライブやレコーディングスタジオや寄席に行って、工房でできたばかりの時計と靴を買って、ついでに生家に行って（何せ自宅生まれ）、生まれたばかりの自分にもっと頑張れと言おう。

ちなみに、今まで同じ生年月日の人とは二人知り合いになった。二人とも女性だったが何もなかった。